



原子力集約全国大会第1回実行委員会の開催

原子力国民会議は、運転再開の加速化、もんじゅの活用、原子炉等規制法の改正、規制委員会の権威向上、といった4つの提言を掲げ、署名活動を実施し、その成果を公表するため、第1回の原子力集約全国大会を、昨年12月1日に産経プラザホールで開催致しました。大会声明書に対し約21万人の賛同の署名を得ました。このようなイベントは従来にない画期的なもので、その後、政府（菅官房長官）に報告し手渡しました。

この署名は大変大きな効果を生み、田中規制委員長続投の検討に際し、影響力を及ぼしたとも言われています。これはまさに民意を原子力規制行政に反映できることの例ではないでしょうか。

原子力国民会議のこれまでの活動が評価されたものと考えます。

原子力国民会議は、「国民が国民の力で原子力利用を正常化する」ことは極めて重要で、国民は総力を挙げて意見の集約を図り、この理念の実現に資するため、今後も精力的に活動していくつもりです。

この実績が評価され、全国大会を再度開催すべきだとの声が多方面から出されたこともあり、第2回となる「原子力集約全国大会2017」を開催することにしました。

開催準備のため、5月22日に、第1回実行委員会を開催しました。実行委員22名が出席し、プログラム、声明書、スケジュール・役割分担、署名活動の進め方などが審議されました。プログラム案は現在以下のとおりです。

~~*~ プログラム案 ~*~*~*

- ◆開催日時：平成29年11月22日（水）
13:30~16:20
- ◆開催場所：大手町産経プラザホール（4階）
- ◆総合司会：佐波優子氏
- ◆プログラム（案）
 - （1）挨拶：衆議院議員招待
 - （2）セッション1：地方からの訴え
（自治体首長）
 - （3）講演：参議院議員（民進党）
 - （4）セッション2：産業界からの意見
 - （5）講演：検討中
 - （6）署名集約報告（原子力国民会議事務局長）
 - （7）閉会の辞

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

実行委員会では、声明書についても検討を進めております。今回の声明は「原子力なくしてこの国は立ち行かない」として、エネルギー資源の少ない島国の日本にとって、原子力発電が必要であることを訴え、賛同の署名を集める予定です。近日に公開、署名活動を開始致しますので、宜しくお願い致します。

草の根セミナーin Spring

1. 最終処分場基本問題検討会での検討を踏まえ、草の根セミナーin Spring「高レベル廃棄物の地層処分を考える」を下記の要領で開催しました。

- ◆日時：平成29年4月24日（月）
16:30~18:30
- ◆場所：TKP スター貸会議室 根津(東京都)
- ◆参加者：48名

2. プログラム

16:30～17:15 第一部セミナー

「解決できるトイレなきマンション」

講師：河田東海夫氏

原子力発電環境整備機構 元理事

17:15～18:00 第二部セミナー

「高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全確保の考え方」

講師：石川博久氏

原子力安全研究協会 研究参与

18:00～18:30 フリーディスカッション

第1部の講師、河田氏は、地層処分とは不変の自然の原理を活かして高レベル廃棄物を地下300メートル以深に埋設するもので長期的な安全性に優れた最適の方法であるとししました。また、地下は地上よりも地震に対してはるかに安全であることも示しました。第2部の講師、石川氏は、地層処分の安全確保の考え方と人工バリアの役割について説明し、さらに安全評価の方法および地下水シナリオについての解析例について解説しました。

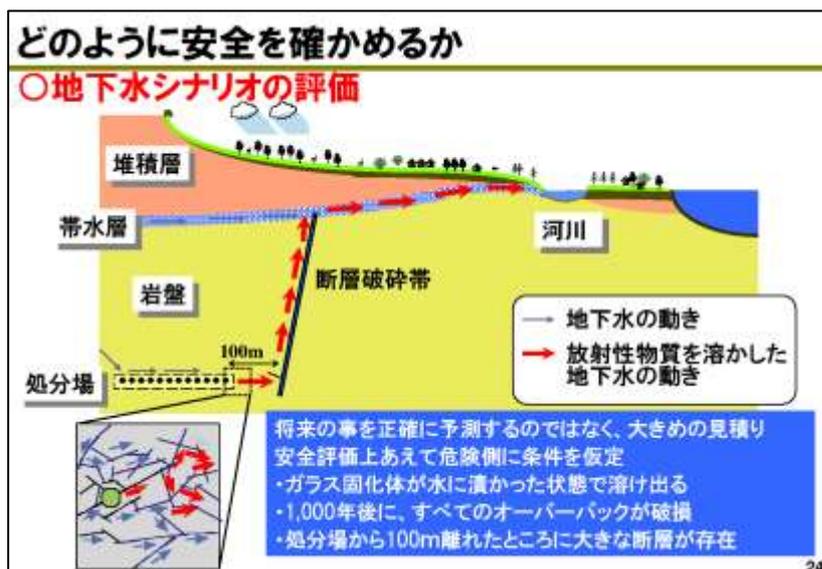
300本の一升瓶を守った地下



- 東日本大震災時、地表の揺れは**震度5強**
- 坑道の奥にある山神社には**一升瓶20本**が供えられており、隣の古酒蔵の棚には**300本の一升瓶**が保管されていたが、**一本も倒れなかった**
- 当時坑内に見学者が一名いたが、地震に気づかなかった

細川マインパーク(旧細倉鉱山)の坑道奥にある山神社と古酒蔵

地下は地上に比べて地震の揺れが小さく、物が壊れにくい



地下水シナリオの評価で、人間の生活圏に達する放射性物質は、埋設直後の1000万分の1程度と非常にわずか

セミナーの詳細報告はホームページをご覧ください。

(原子力国民会議事務局)